

とぎつちょう うちどく すいしん
時津町は「家読」を推進しています

たまには テレビをけして

ちゅうがくねん む ねん はるごう
中学年向け 2023年 春号



発行：時津町立時津図書館



しょうがくせい 「小学生からの わくわく!おうち実験室」

市岡 元気/著 (アスコム)

目にしみにない玉ねぎの切り方や、チューブのワサビで消える油性ペンの落書き。スニーカーのおいけしには10円玉! などなど。どこのおうちにもありそうなものを使って、家族といっしょにおどろきの実験をやってみよう!

うちどく 家読とは

家族みんなで好きな本を読んで、読んだ本について話す。これが「うちどく(家読)」です。むずかしいルールはいりません。

家族みんなでルールを決めてはじめてみましょう。

家族で同じ本を読みあったり、おとうさんやおかあさんに読み聞かせをしたりと楽しい時間を過ごしましょう。



「ブラディとトマ ふたりのおとこのこ ふたつの国 それぞれの目にうつるもの」

シャルロット・ペリエール/文 フィリップ・ド・ケメテル/絵 ふしみ みさを/訳 (BL 出版)

外国からきたある家族が、トマの家でいっしょにくらすことになった。トマもその家族のブラディもおたがいに言葉は通じなかったけど、しだいに心を通わせていき…。

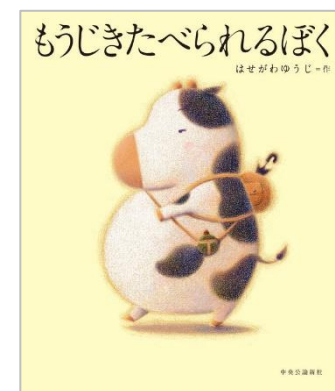
戦争で住んでいるところをうばわれ、ひなんでいる人が大ぜいいる今だからこそ、家族で読んでほしい一冊です。



「おはなしのたねをまくと…」

クラウディオ・ゴッパッティ/作 ディヤナ・ニコロヴァ/絵 いのうえ さあや/訳 (工学図書)

知っているはずの知らないところに住むおじいさんが、「むかしむかしあるところに…」と書いた紙を、種をまくように地面にうめました。おじいさんがせっせと世話をすると、地面から芽が出て、やがて大きな木になりました。そしてその木にはたくさんのおはなしの葉がしげりました。おじいさんはその葉をかりとると…。



「もうじきたべられるぼく」

はせがわ ゆうじ/作 (中央公論新社)

「ぼくは牛。もうじきたべられてしまう」だからさいごに、ひと目だけお母さんに会いに行くことにした。

命の重さ、食べ物のありがたさを感じる絵本です。

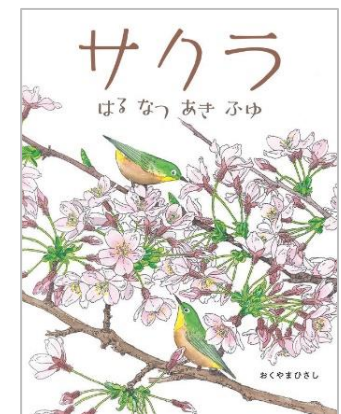
ティックトックでも話題になった物語が、絵本になりました!



「オハヨウどろぼう」

おの りえん/作 (理論社)

オハヨウどろぼうがぬすむのは、あさのあいさつの「おはよう」ということば。そんなどろぼうがいるの? 「おはよう」をぬすむって? そんなのつくりばなしさ! という人もいる。ところが、ある朝、しんちゃんは本当に「おはよう」をぬすまれてしまった。さて、しんちゃんはどうなるの?



「サクラ はるなつあきふゆ」

おくやま ひさし/作 (ほるぷ出版)

お花見の季節ですね。みんなの身近にあるサクラ。サクラのことをどれくらい知っているかな? 一年の変化を見てみると、新しい発見があるかも。

この絵本のように、同じサクラの木を一年間観察し続けてもおもしろそう♪ 自主学习などにいかが?